

日本人大学生とタイ人大学生のアルバイトに対する考え方の違い

所属 教育学部 名前 チョングワッタナウドム・ピッチャーナン

1. 初めに

交換留学生になった後、私はタイも日本においてもアルバイトをした経験が持っている。大体の日本人の大学生はよくアルバイトしている。一方、タイ人に対して、アルバイトする人がいる。だが、小さい割合である。

私は日本でも、タイ国でもアルバイトをしたが、その経験からしても、国によつての違いは明らかであると感じた。アルバイトの働き方も、日本人の考え方も違っている。これらの状態から、考え方の違いや、アルバイトの社会の違いなど原因で、アルバイト人数が違いの
かについて疑問を抱いた。

1.1 研究背景

独立政治法人日本学生支援機構 (JASSO) の 2014 年の調査によると、日本の大学生の 60%以上が授業期間中定期的にアルバイトをしている。アルバイトをする理由は経済的理由が 1 割から 2 割に増加している。また、一週間にアルバイトをする時間は 0 時が多いが、16 時間から 20 時間までの長時間アルバイトをする日本人大学生もいる。

三井・大相 (2008) のセミ調査からの報告のアルバイト意識調査の場合についての研究によると、日本の大学生は約 90%アルバイトをしている。アルバイトをしてから喜びことは金銭収入ということだが、「仲間や客など人間関係からくる喜び」と「仕事自体からくる喜び」と考えている大学生が半分以上もいる。つまり、仕事認知においては人間関係の広がりへの肯定感が高いことが分かって来た。

スワチャイスット・シャワリット(2010)のチェンマイ大学に対する調査によると、約 57%のチェンマイ大学生がアルバイトをしている。アルバイトをする理由は経験のためが一番多く、次は、親からもらうお金が足りないという理由である。しかし、アルバイトに対する考え方があまり調査しない。

上で見たから、日本人大学生でもタイ人大学生でも経験のためアルバイトをしている。けれども、日本人の方が強いアルバイトをしている。そういう状態で、考え方や働き方などの理由で、人数が違うか。また、現在はタイと日本のアルバイト状態はどうかと疑問している。

1.2 研究科目

この研究は日本人とタイ人の大学生のアルバイトの現状とその考え方の違いを明らかに

する。「アルバイトの状態はどのように違うか。」と「アルバイトに関する考え方はどのように違うか」と「アルバイトにおける上下関係がどのように違うか」の3課題を分けている。

2. 概要

この研究では最初日本人と外国人にアルバイトについてインタビューして、主に選択式による質問用調査を作成して、その後調査を配布して、回収して分析した。概要は以下の通りである。

2.1 質問紙の作成方法

まず、質問紙を作成するため、タイ人2人、中国人2人、日本人1人にインタビューした。その後、インタビューした情報から取り纏めて、質問を作成して、タイ語と日本語で質問調査を作成して、配布した。

2.2 配布仕方

配布し方は2つ方法を利用する。タイ人の大学生に調査を配布するため、タイでの調査は「google」というサイトを利用してオンライン調査を実施した。一方、日本人での調査は群馬大学生に直接に配布した。調査期間は2016年7月である。配布した後、両方の調査を回収して、単純に集計して考察する。

2.3 調査協力者

調査協力者はタイ人と日本人の10代から20代までのそれぞれの母国に住んでいる大学生である。

表1 調査協力内容(人数)

国籍		タイ(35人)	日本(35人)
性別	女性	30	29
	男性	5	6
年齢	10代	1	13
	20代	34	22
アルバイト 経験の有無	有る	27	29
	無し	8	6
アルバイト した回数	1-2回	13	21
	3-4回	9	6
	5-6回	3	2
	6回以上	2	0
	無答え	1	0

協力者はタイ人とも日本人とも女性が圧倒的に多い。大体 8 割合の協力者の年齢は 20 代である。日本の協力者は大学内において配布するから全員大学生である。一方、タイの協力者はサイトで配布するので、チェンマイ大学の大学生だけではなく、バンコクに住んでいる大学生も協力してもらおう。また、大学生に卒業したが、仕事を探す中である人もいるから、職業は大学生の他に、アルバイトも無職もある。

協力者の答えから見ると 77%のタイ人も日本人もの協力者はアルバイトしたことがある、アルバイトの仕事はサービス業が一番多く、後は教師業、大学内で順々になる。タイの協力者は約 1 年間アルバイトした経験だが、タイの協力者は 6 ヶ月以下経験、1 年半ぐらい経験、2 年以上経験を持っている人数が同じくらい表している。

3. 研究結果

3.1 アルバイトの現状

最初はアルバイトの現状である。協力者の答えから見ると、アルバイト経験の有無について聞いたところ、日本人とタイ人各 35 名に対し、25 人以上アルバイト経験がある。確認した後、アルバイト経験がある人を調べてみると、アルバイトの職種は日本人もタイ人も同じでサービス業が一番多く、次は教師業になる。けれども、日本人の大学生のアルバイト経験の期間が大体 1 年以上だが、タイ人の大学生は大体 1 年以下であった。

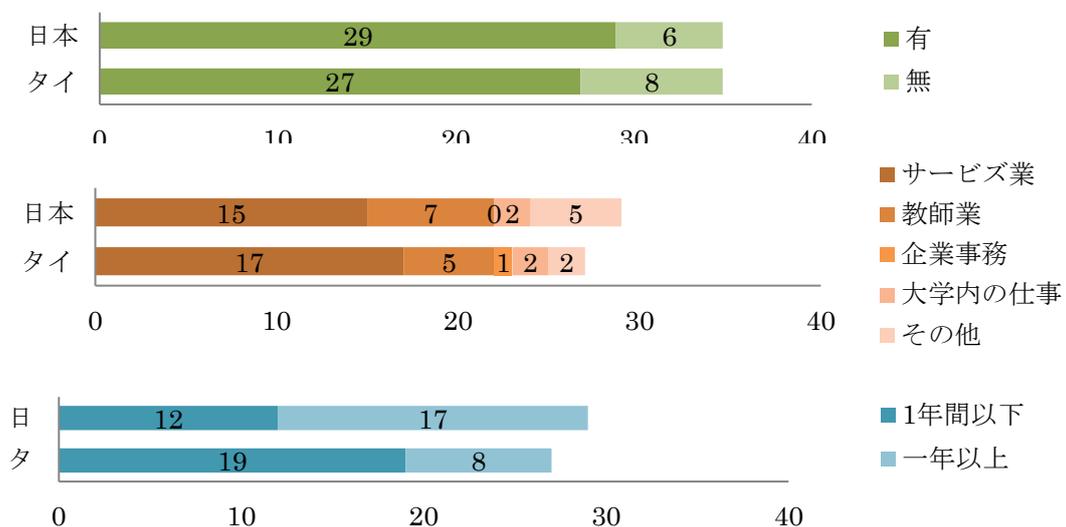


図 1：アルバイト経験の有無

図 2：アルバイトの職種

図 3：アルバイト期間

3.2 アルバイトに関して考え方

アルバイトに関して考え方が「アルバイトの選択理由」、「アルバイトから得たこと」、「アルバイトの重要性」の3つの課題を分けている。

Q1 アルバイトの選択理由

アルバイトに関しての考え方が協力者の答えから見ると、タイ人の大学生のアルバイトを選んだ理由について「とにかくお金が欲しい」が一番多く2番は「アルバイトを通じて自分の成長を感じるから」という答えである。一方、日本人の大学生は「アルバイトの内容が面白いから」が1番多くになり、次は「将来の仕事に役に立つと思ったから」と回答している。

表1：アルバイト選んだ理由（人）

アルバイトを選んだ理由	タイ	日本
1. アルバイトの内容が面白いから	3	8
2. アルバイトを通じて、自分の成長を感じるから	6	2
3. アルバイトをすることは大事なことだと思うから	0	1
4. とにかくお金が欲しいから	8	5
5. 生活できないので、このアルバイトをするから	2	2
6. アルバイト経験が社会では必要だと思うから	4	3
7. 将来の仕事に役に立つと思ったから	0	7
8. アルバイトの一つもしていないと恥ずかしいから	0	0
9. 友人が出来る、あるいは友人がやっているから	1	1
10. その他	3	0
	全部 27	29

Q2 アルバイトから得たこと

アルバイトから得たことについて答えでは日本人の大学生は「社会性が身に付く」が1番多くになって、「お金の重要性を実感する」が2番になる。一方、タイ人の大学生の答えでは「忍耐力がつく」と「人間関係の作り方を学ぶ」が多くなっている。

アルバイトから得たこと	日本	タイ
社会性に身につく	28	13
敬語などの言葉遣い出来るようになる	14	17
忍耐力がつく	11	20
お金の重要性を実感する	20	11
人間関係の作り方を学ぶ	14	20

表2：アルバイトから得たこと（人）

Q3 アルバイトの重要性

日本人の大学生とタイ人アルの大学生にとってアルバイトの重要性を確認するため、日本人の大学生もタイ人の大学生も大学の講義が一番重要に並び、アルバイトは最後に並んだ。協力者の答えから見ると、日本人の大学生もタイ人の大学生も大学の講義一番重要に並んで、アルバイトは最後に並んだ。日本人の大学生はサークルと友達との時間が講義の後の順番だが、タイ人の大学生に対して家族や友達との時間を並んだ。2番と3番の結果から、大学生の過ごし方は少し異なることがわかってきた。

表3：日本人の協力者にとって大学生生活から重要性の順番を選ばれる答え（人）

大学生生活の順番選択	1番	2番	3番	4番	5番
大学の講義	27	2	1	5	2
アルバイト	0	2	7	5	13
サークル活動	1	13	2	7	5
友達との時間	5	10	12	4	0
家族との時間	0	5	8	5	3
自分だけの時間	2	3	5	9	12
全部	35	35	35	35	35

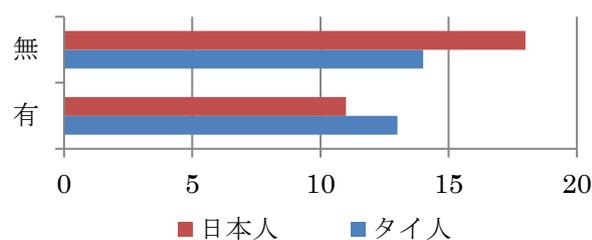
表4：タイ人の協力者にとって大学生生活から重要性の順番を選ばれる答え（人）

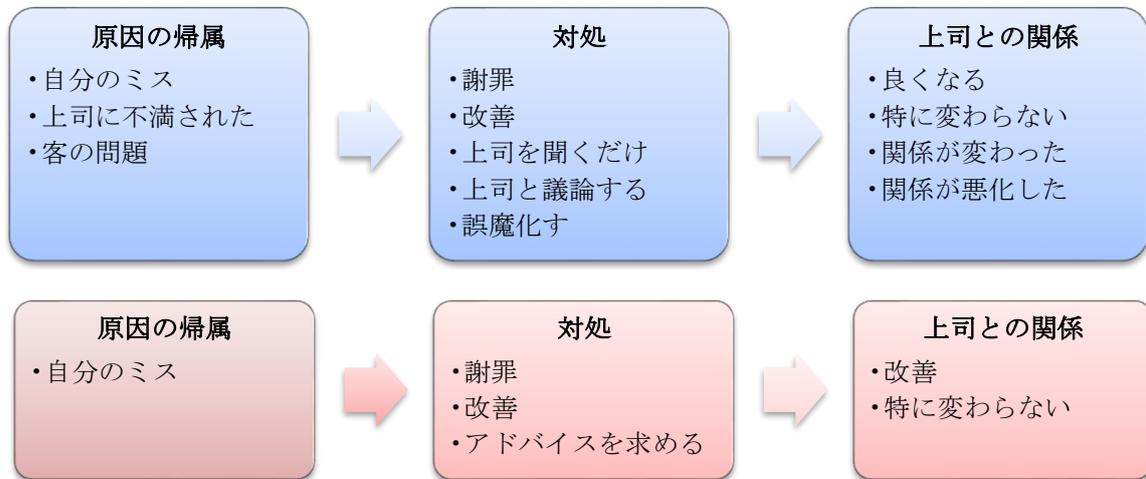
大学生生活の順番選択	1番	2番	3番	4番	5番	無答え
大学の講義	23	2	3	6	3	4
アルバイト	0	3	6	5	8	4
サークル活動	1	4	1	2	12	4
友達との時間	1	8	10	6	3	4
家族との時間	0	9	3	6	4	4
自分だけの時間	6	5	8	6	1	4
全部	31	31	31	31	31	24

3.3 アルバイトの働き方について上司との関係に着目

アルバイトの働き方について上司との関係に着目に調べてみた。最初、アルバイト先において上司怒られた経験があるかないかについて確認する。結果から見ると、タイ人の大学生は日本人の大学生より怒られた経験があると回答する人が多い。

図4：日本人とタイ人の大学生の怒られた経験





上：日本人の大学生の怒られた経験

下：タイ人の大学生の怒られた経験

また、上司に怒られた際の帰属、対処、怒られた後の上司との関係についてみると、日本人の大学生は自分のミスと考えているが、タイ人の大学生は上司や客などのような外からのミスを考える人もいる。対処では、日本人の大学生は謝罪やアドバイスを求めるような一般的の対処しかない。一方、タイ人の大学生はごまかしや議論する人もいる。さらに、上司との関係について、日本人の大学生は特に変わらない。けれども、タイ人の大学生は悪化すると回答する人もいる。

4. 参考とまとめ

まとめの部分は「タイ人と日本人の大学生のアルバイトの現状」、「アルバイトへの考え方」、「アルバイトにおける上司との関係」の3課題を分析する。

タイ人と日本人の大学生のアルバイトの現状について、タイ人の大学生もアルバイトをする大学生が多くになっている。日本人もタイ人もアルバイトの職種はサービス業・教師業・大学内の仕事と大体同じである。けれども、アルバイト経験の期間から見ると、日本人の大学生はタイ人の大学生よりアルバイト長期間やる傾向が高い。日本人大学生はアルバイトを一時的なものとは考えず、日々のライフスタイルの中に取り入れていると思われる。

アルバイトへの考え方について、アルバイトの選択理由はタイ人の大学生も日本人の大学生も双方にとって大事なことはまず大学の講義である。日本人の大学生は仕事の内容や将来の仕事について考えてアルバイトを選ぶ。一方、タイ人の大学生はお金や自分の成長について考えて、アルバイトを選ぶ。また、アルバイトによって得たことから見ると、タイ人の大学生は忍耐力がつくとしている。日本人の大学生は社会性を身に付くとしている。このことから、日本人の大学生は仕事内容そのものを重視しているのに対し、タイ人の大学生は

賃金や成長からえらんでいるので働き力が異なると思われる。

最後、アルバイトにおける上司関係については、日本人の大学生は怒られた際も、原因は自分のせいと考えて、すぐに謝罪して、その後の関係性の変化も見られない。一方、タイ人の大学生は怒られた経験が自分のミスだけではなく、相手に原因を帰属することもある。謝罪することもあるが、悪化することもある。2つの結果から見ると、タイ人の大学生はアルバイト先で、上司との関係にストレスや困難を感じている。そのように状態が起こる理由は2つを説明出来る。一つ目は Hofstede(1991) によると、日本とタイの権力格差の次元と、個人主義集団主義の次元は、タイは権力格差が日本より大きく、集団主義的傾向も日本より強い。つまり、職業経験の少ないタイ人学生は、アルバイト先で、権威主義的な「上司」と衝突しやすい傾向があるのではないかと考えられる。一方の日本人学生は、学生時代から集団主義的な社会での経験に慣れ、アルバイト先の上司も権威主義的な対応をする人が少ないため、トラブルが回避されているのではないかと考えられる。上司が権威主義的なものかもしれない。後一つは園田 (2014) の「日本人学生と海外人大学生のアサーション席に関する調査」という研究からによると日本人は葛藤解決の際、非主張的な方法を使い、タイ人はより主張的である。葛藤解決の方法が違いなのかもしれない。

5. 本研究の限界

① 調査協力者数

今回の研究では2か国とも35名を対象として調査を行ったが、いずれも一つの大学の学生を対象としているため、データが偏った可能性がある。さらに調査者のバリエーションを増やして検討する必要がある。また、男女比も女性に偏っていたため、今後は両方の性別も同数程度になるようにする必要があるだろう。

② 留学生のデータ

今回は各国に住する学生を対象とする調査であり、留学生は対象としなかったが、双方の国でアルバイトをした経験のある留学生のデータからもアルバイトの現状や両国の違いを検討することができたはずである。今後は、留学生の調査も併せて実施していくことが重要である。

【参考文献】

三井・大相 (2008) 「ゼミ調査からの報告 —アルバイト意識調査の場合—」『東京経大会誌』

園田智子 (2014) 「日本人大学生と海外大学生のアサーション度に関する調査研究-日・米・中・泰の4ヶ国比較から-」『異文化間教育学会』

Mr. Chwalit Suwachaisut (2010) 「Factors affecting the work habits of school aged undergraduate students, Chiang Mai University academic year 2010」『Faculty of economics, Chiangmai University,』

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO) (2016) 「平成 26 年度学生生活調査」結果の概要」
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2016/03/18/data14_outline.pdf、2016.07.20

Hofstede Greet(1995) *Culture and Organization Software of Mind*, 有斐閣